

修学旅行記

No.20 12/1(火)
文責:橋渡

今年度は新型コロナウイルスの影響で様々な行事が削減・簡素化される中、待ちに待った修学旅行が実施されました。東北地方、宮城県の南三陸町から南下して福島県の会津若松までの旅路。その2泊3日の修学旅行での学習の様子を紹介します。

《1日目》

震災学習

1日目は宮城県の南三陸町で震災学習が行われました。語り部さんのお話を聞いた後、実際に震災被害に遭われた建造物や遺産を回る2時間半のツアーでした。語り部さんのお話では、震災により自らのお母さんを亡くされたお話を涙ながらにお話いただきました。また、今の南三陸町の復興のために立ち上がり、お互いに励まし合いながら前に進んでいることを熱く語っていただきました。一瞬で命をいとも簡単に奪っていく津波の恐ろしさを知ると同時に、津波が襲った後の絶望感や喪失感、やるせなさを、お話から感じることができました。その中で私が驚いたのは、語り部さんは震災前後について、時間とそとの時の記憶、「何を思って何を考えていたのか」までを、事細かに鮮明に話してくださいましたこと。これは事前学習でお話してくださいました木村さんとも共通する所です。少し前といっても、もう十年近く経つ東日本大震災。この十年間で忘れようとも忘れられないほど深く心に刻まれた記憶。「後世に正しく伝えぬくまで忘れてなるものか」といった決意まで感じ取れるような時間でした。

語り部さんのお話の後には、実際に被災した建物や津波の到達深度を自分の目で見たり、その時、人々がどのように避難して助かったのか、また、助からなかったのかを説明していただいたりしながら、南三陸町内をバスで回りました。今までの「話では聞いたけど・・・」という不確かなものから、確かな現実として実際に起こった災害であることを実感させられるものでした。

この震災学習では、自然災害の恐ろしさはもちろん、災害が起きた後の苦悩や復興への挑戦といった「震災の内側」の一部を知れたことが最も大きな学習であったと思います。テレビや報道による「震災の外側」はどこか他人事であると感じてしまいます。しかし、今回の様に、実際に現地に行ってみて、被害に遭われた方のお話を聞いてみて、「今自分が立っているこの地面の下にはまだ見つかっていない方がいるかもしれない」と肌で体感してみると、今まで『知識』として理解していたものに感情がくっついたような気がしました。この学習で、「実際に体験すること」の大切さを再認識することができました。



南三陸町旧防災対策庁舎の説明を聞きながら見上げる

《2日目》

松島く遊覧船く

日本三景である松島。その島々の間を遊覧船に乗って40分。天気も曇一つない快晴でゆったりとした時間が流れました。船内アナウンスの案内では、崩れそうな岩を補修工事したり、松林を維持するために植林したりと、景観を守るために地元の方々も苦慮しているのだとか。長きに渡り観光名所として栄える松島であっても、「偶然できた景観が綺麗だから自然と人が集まる」のではなく、「人々の努力によって景観が守られているから人が集まる」ということを実感しました。白馬国際フォーラムでの武藤さんのお話と共通する部分があり、この白馬で生活する私たちに、とっても、学ぶべき点があったのではないのでしょうか。



《2日目》

ハワイアンズ

松島を出発して、スパリゾートハワイアンズへ。道中、映画「フラガール」を見ながら向かいました。戦後、炭鉱として栄えていた福島県。高度経済成長期による石油の普及により、次々と炭坑が廃坑となっていくきます。炭坑で働いていた多くの人々の職が無くなり、困り果てる人々。そんな失業者の働く場としてハワイアンズが建設されました。時代の流れに目を背け、変化していくことに抵抗を示す炭坑労働者と新しい文化にチャレンジしようとする若者とが対立する場面が印象的でした。皆さんも絶叫スライダーに飛び込むかのように、新時代も勇敢に乗り越えてください！

《3日目》

飯森山・鶴ヶ城

福島県会津若松へ。最初に飯盛山にて赤べこの絵付け体験と飯森山の観光をしました。赤べこの絵付け体験では真っ赤な牛(べこ)に思い思いに絵具を塗っていきます。赤べこに斑点がついたり、お花が咲いたり、真っ黒になったり・・・。時間いっぱい表現する時間となりました。赤べこは元々子どもの魔除けとして願いが込められてきました。受験生の皆さんにはピッタリの置物です。コロナに負けず受験を乗り切るぞ！飯森山の観光では、戊辰戦争で自刃した白虎隊のお墓を参拝したり、山の中腹から当時の会津若松市内の様子を解説していただいたりしました。皆さんと同じ年ごろである青年達の悲運。何か感じることもあったのでは？飯森山を後にし、鶴ヶ城へ。国内唯一の赤瓦と真っ白な外壁が『映える』綺麗なお城でした。私たちの誇る松本城とは色も雰囲気も異なりますが、それぞれの地での発展や文化の継承に多大なる影響を与えていると考えると、お城の存在ってすごいですね。

